

## 第1回 石狩市地域防災計画・石狩市水防計画改訂検討委員会【要点筆記】

日 時：平成24年3月24日（土）14：10～16：10

場 所：石狩市役所 4階 401・402会議室

出席者：次のとおり

委 員					
役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
委員長	加賀屋 誠一	○	委員	熊谷 雅之	○
委員	中田 守	○	委員	林 太一	×
委員	菊池 政幸	○	委員	藤巻 信三	×
委員	石川 國弘	○	委員	五十嵐 正勝	○
委員	東 重孝	×	委員	有馬 信	○
委員	千葉 則理	○	委員	米澤 哲	○
委員	川上 孝行	○	委員	小沼 陽子	○
委員	古泉 利雄	○	委員	羽田 美智代	○
委員	山田 義晴	○	委員	荒川 よし子	○
委員	酒井 志津子	○			
事務局	所 属		氏 名		
	総務部長		川又 和雄		
	総務課危機管理担当課長		市園 博行		
	総務課危機管理担当主査		山口 恒心		
	総務課危機管理担当主事		和田 照秀		
	本計画改訂業務委託受託者		株式会社ドーコン 3名		

傍聴者：0人

### 1. 開 会

### 2. 委嘱状の交付

### 3. 副市長挨拶

【白井石狩市副市長】

東日本大震災を受けて、石狩市の実態に即した、市民が行動できる防災計画が必要。

地域に密着した災害対策を考えていきたい。委員長を中心に意見をとりまとめていただきたい。

### 4. 委員長選任

委員長に加賀屋委員を選出

### 5. 委員長挨拶

【加賀屋委員長】

委員の皆様から、いろいろと意見をいただきながら計画をまとめていきたい。市民参加型の改訂としたいので協力をお願いする。

論点が3つある。

1つは、東日本大震災では、大津波警報が出て55%の人は避難しなかった。人間は勝手に大丈夫だと想定してしまう傾向がある。地域の防災力は普段の取り組み、行動が反映される。

2つ目は、いろいろな情報が入ってくるなかで、かえって情報に対する感度が鈍くなっている。適切な情報に基づき、適切な行動が必要。自分で助かる自助、地域のコミュニティによる共助が基本。

3つ目は、日中は働き手が地域にいない。時間と場所と場合に応じた対応を考えることが大切。身の丈にあった計画改訂となることがポイント。

## 6. 委員紹介

### 7. 議事

#### (1) 検討委員会の位置づけと目的

【事務局：山口主査】

計画改訂の経過等について説明。

【事務局：(株)ドーコン】

「検討委員会の位置づけと目的」について説明。

【加賀屋委員長】

説明内容に対して、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

【千葉委員】

地区防災計画にも水防計画の内容を盛り込むのか。

【事務局：山口主査】

地区防災計画には、河川災害も検討対象となる。

【菊池委員】

厚田川の一部では、以前から大雨の際の浸水が不安視され対策が求められていたところ、平成22年8月の大雨で床上、床下浸水が発生した。このような住民の不安を解消するための計画づくりが必要。

【加賀屋委員長】

水防計画に盛り込むべく議論したい。

【五十嵐委員】

道の地域防災計画が見直されている中で本市の防災計画を検討することになるが、指針とする道

の最終的な計画との整合性はどのようになるのか。

また、地域防災計画と水防計画の内容を分けて議論するのは難しい。一体で議論すべきではないか。

**【加賀屋委員長】**

地域防災計画と水防計画の区別無く議論を進めることとしたい。

**【事務局：市園課長】**

道から日本海側の津波予測結果が示されるまで時間がかかる。しかし、急いで検討すべき計画であるため同時並行で進めるが、道の調査結果等が示された段階で必要に応じて修正することを想定している。

地域防災計画と水防計画の検討対象は一体で行うこととで構わない。

## **(2) 石狩市の想定災害**

**【事務局：(株)ドーコン】**

石狩市の想定災害について説明。

**【加賀屋委員長】**

近年はゲリラ豪雨と呼ばれる急激な気象変化もあり、国が管理する主要河川だけでなく小河川も含めて想定にとらわれない対策が必要。普段からの災害対策が重要になる。

**【五十嵐委員】**

昭和 50 年代の洪水被害は、石狩川そのものの決壊が要因か。

**【事務局：川又部長】**

枝川による被害もあるが、本町地区は石狩川による被害であった。

**【五十嵐委員】**

河川改修が進んでいるので、今回提示の洪水実績図を元に議論すべきではないと考える。

**【事務局：(株)ドーコン】**

国が公表している洪水の浸水予測図を参考として検討をお願いしたい。

**【有馬委員】**

津波の高さをどの程度と想定するのか。

**【事務局：(株)ドーコン】**

東日本大震災規模の津波を想定するかどうかも含めて、今後の検討テーマとしたい。

**【羽田委員】**

平成 23 年 2 月公表の津波浸水予測図の根拠は何か。

**【事務局：(株)ドーコン】**

北海道南西沖地震の津波高さを参考にして、参考史料等で過去に発生したこと確認されている地震の想定地震規模を基に計算したものである。

**【加賀屋委員長】**

現時点で津波の規模を想定するのは困難だが、東日本大震災規模の災害が起こりうることも踏まえて対策を考える必要がある。避難勧告や指示が出た際に、適切に避難することを習慣化し、被害が無ければラッキーだと考えられるよう、どのような災害にも強い地域づくりを検討していただきたい。現在、道が津波規模を研究中であるが、予測は容易ではないと思われる。

**【五十嵐委員】**

10mの津波が来た場合、逃げる場所はない。大規模津波は来ないことを前提に議論せざるを得ないのではないか。

**【加賀屋委員長】**

基本の予測レベルを前提として、附帯事項として大規模災害の対策も検討しておくのが妥当と考える。

**【菊池委員】**

厚田区内でも津波規模を想定しているが難しい。厚田漁港の津波高さは4mと予測されているが、20m以上の場所に避難することとしている。

**【石川委員】**

最近、地元紙のコラムで、江戸時代に浜益から銭函にかけて大津波が押し寄せた可能性が紹介された。これらの情報も参考にすべきではないか。

**【事務局：(株)ドーコン】**

内容を調べることにする。

**【加賀屋委員長】**

次回の会議で、前提とする被害想定について再整理することとしたい。

**【米澤委員】**

二次被害についても検討対象となるのか。

**【加賀屋委員長】**

派生する諸々の被害も想定する必要がある。新港地区の産業への影響も検討対象となる。

**(3) 計画改訂の方針とスケジュール**

**【事務局：(株)ドーコン】**

計画改訂の方針とスケジュールについて説明。

**【加賀屋委員長】**

今回策定する計画を元に市民に対して防災に関する情報を提示し、継続して対策を検討していくことが重要である。

**【五十嵐委員】**

策定後の計画内容を市民にどのように伝えていくかの検討も必要と思う。

**(4) 意見交換**

**【加賀屋委員長】**

全体を通じて、ご意見をいただきたい。

**【荒川委員】**

災害の全体像が明確でなく、現時点では不安を感じる。

**【羽田委員】**

防災に関する情報が市役所内で横断的に共有化されることを期待する。

**【小沼委員】**

今後の会議で勉強していきたい。

**【酒井委員】**

使われる言葉が難しいと感じた。災害に対して危機感を持って、どのように逃げるべきかななどを分かりやすく伝えていきたい。

**【山田委員】**

内容が難しく戸惑っている。高齢者のなかでも身体が不自由な人は避難するのは容易ではないことを踏まえて議論していきたい。

**【古泉委員】**

障がい者の避難は非常に困難。本検討会での議論を参考に対応を考えたい。

(5) その他

【加賀屋委員長】

次回、第2回検討委員会は、5月12日（土）午後の開催とします。

以上で、本日の委員会を終了します。

平成24年4月13日 議事録確定

石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会

委員長 加賀屋 誠一